

令和6年度 第3回 徳島県GIGAスクール構想推進本部会議

■ 推進目標

「教育DXによる学び・指導の充実と深化」

・「徳島ICT活用モデル」のA段階以上の実施率100%

徳島県GIGAスクール構想推進本部事務局



次 第

日時 令和7年3月11日（火） 午後3時から午後4時15分まで

1 開 会

2 本部長挨拶

3 協 議

(1)「徳島ICT活用モデル」に関する取組について

(2)次年度の方向性等について

(3)本年度の成果と課題及び次年度の目標について
(各部会長より報告)

(4)その他

4 閉 会

出席者名簿

所属及び役職	氏名(敬称略)	備考
徳島県教育委員会 教育長	中川 斉史	
徳島県市町村教育委員会連合会 会長 徳島県市町村教育委員会連合会 副会長	松本 賢治 藤田 完	欠席 代理出席
徳島県教育委員会 副教育長	松本 光裕	
徳島県小学校長会 会長	井上 圭三	
徳島県中学校長会 会長	松尾 真千子	
徳島県高等学校長協会 会長	宮本 淳	
徳島県特別支援学校長会 会長	名山 泰子	
徳島県教育委員会 教育次長 (幼・小・中学校担当)	海老名 正規	
徳島県教育委員会 教育次長 (高・特別支援学校担当)	眞相 秀也	

出席者名簿

所属及び役職	氏名(敬称略)	備考
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	内海 はやと	
徳島県教育委員会 教育DX推進課 課長	戎 弘人	教育DXタスクフォースリーダー 共同調達検討部会長
徳島県教育委員会 教育DX推進課 主幹	黒田 収	推進チームリーダー 情報モラル・情報セキュリティ対 策部会長
徳島県教育委員会 義務教育課 課長	長谷 彰彦	
徳島県教育委員会 義務教育課 主幹	村岡 文英	中学校部会長
徳島県教育委員会 高校教育課 課長	酒井 吉彦	
徳島県教育委員会 高校教育課 主幹	藤本 智美	欠席 高等学校部会長
徳島県教育委員会 高校教育課 班長	近藤 伸二	代理出席
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	中山 登	特別支援学校部会長
徳島県教育委員会 いじめ・不登校対策課 主幹	阿部 憲市	学びの保障部会長
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	牧野 浩章	データ活用研究部会長
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 課長	宮城 佳恵	小学校部会長

【事務局】徳島県教育委員会 教育DX推進課 GIGA・学び創造担当

富永 憲志(主)、山下 芳紀(副)、楠 俊弘、大西 芳正、藤倉 新、播磨 敬二

(1) 「徳島県 ICT 活用モデル」に関する取組について

本年度の目標



A段階以上の実施率が、全校100%を目指す。

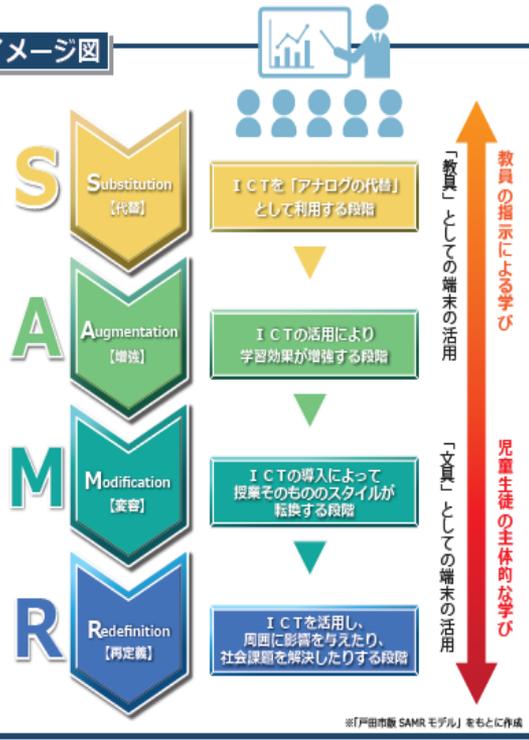
A段階以上(5月)

小	59.8%
中	48.8%
高	34.2%
特	54.6%

<推進チームの主な活動内容>

- 本部会や各部会での決定事項などを各校に周知し、学校現場における1人1台端末を活用した効果的な指導や家庭学習の一層の充実を図る
- 学校現場からの意見等を本部会や各部会に周知する
- 学校訪問等での指導・助言や好事例の収集
- 「徳島ICT活用モデル」に係る調査及び支援

イメージ図



学校訪問(計111校)

◎ 小学校 46校・中学校 21校・高等学校 33校・
特別支援学校 10校・中等教育学校 1校に訪問

学校訪問 非対象校へのヒアリング(計179校)

◎ 小学校 113校・中学校 58校・高等学校 7校・
特別支援学校 1校にオンラインで聞き取り

「教育DX推進に係るFAQ」の作成

◎ 学校からの実際の意見等に対する回答

(1) 「徳島県 I C T 活用モデル」に関する取組について

本年度の目標

A段階以上の実施率が、全校100%を目指す。



5月と12月のSAMR比較表

校種/5月	「S」段階	「A」以上の段階	校種/12月	「S」段階	「A」以上の段階	内訳 (A)	(M)	(R)
全校種	47.1%	52.9%	全校種	5.5%	94.4%	78.6%	14.8%	1.0%
小のみ	40.2%	59.8%	小のみ	2.5%	97.5%	78%	19.5%	0.0%
中のみ	51.2%	48.8%	中のみ	8.8%	91.3%	80%	10%	1.3%
高のみ	65.8%	34.2%	高のみ	12.5%	87.5%	77.5%	7.5%	2.5%
特のみ	45.4%	54.6%	特のみ	0%	100%	81.8%	9.1%	9.1%

※四捨五入により合計100%にならない箇所もあり

年度末に「A」以上になる見込みを含む場合

校種/年度末の見込み	「A」以上の段階
全校種	97.2%
小のみ	99.4%
中のみ	95.1%
高のみ	92.5%
特のみ	100%

特別支援学校は目標達成となった。
小・中・高においては、
「A」段階以上の実施率100%には
至らなかったが、多くの学校が「A」
段階 以上に向上した。

(1) 「徳島県 I C T 活用モデル」に関する取組について

教育DX推進における課題の割合(小・中)

情報収集期間: 5月～12月

『S段階』の学校における課題		『A段階以上』の学校における課題		課題(合計)	
【小学校】	%	【小学校】	%	【小学校】	%
①活用推進	37.5%	①活用推進	28.9%	①活用推進	32.5%
②効果的活用	15.0%	②効果的活用	16.7%	②効果的活用	16.0%
③データ利活用	1.3%	③データ利活用	1.8%	③データ利活用	1.5%
④情報活用能力	1.3%	④情報活用能力	7.9%	④情報活用能力	5.2%
⑤個別最適な学び	6.3%	⑤個別最適な学び	4.4%	⑤個別最適な学び	5.2%
⑥デジタル人材育成	11.3%	⑥デジタル人材育成	10.5%	⑥デジタル人材育成	10.8%
⑦機器・ネット環境等	22.5%	⑦機器・ネット環境等	28.1%	⑦機器・ネット環境等	25.8%
⑧ICT支援員との連携	1.3%	⑧ICT支援員との連携	0.9%	⑧ICT支援員との連携	1.0%
⑨その他	3.8%	⑨その他	0.9%	⑨その他	2.1%
【中学校】	%	【中学校】	%	【中学校】	%
①活用推進	28.3%	①活用推進	23.8%	①活用推進	26.1%
②効果的活用	4.3%	②効果的活用	7.1%	②効果的活用	5.7%
③データ利活用	0.0%	③データ利活用	0.0%	③データ利活用	0.0%
④情報活用能力	4.3%	④情報活用能力	11.9%	④情報活用能力	8.0%
⑤個別最適な学び	4.3%	⑤個別最適な学び	4.8%	⑤個別最適な学び	4.5%
⑥デジタル人材育成	23.9%	⑥デジタル人材育成	16.7%	⑥デジタル人材育成	20.5%
⑦機器・ネット環境等	30.4%	⑦機器・ネット環境等	31.0%	⑦機器・ネット環境等	30.7%
⑧ICT支援員との連携	0.0%	⑧ICT支援員との連携	2.4%	⑧ICT支援員との連携	1.1%
⑨その他	4.3%	⑨その他	2.4%	⑨その他	3.4%

※学校主体では対応が難しい課題(灰色枠) ⇒ GIGAスクール構想第2期の着実な実施

(1) 「徳島県 ICT 活用モデル」に関する取組について

教育DX推進における課題の割合(高・特)

情報収集期間: 5月～12月

『S段階』の学校における課題		『A段階以上』の学校における課題		課題(合計)	
【高等学校】	%	【高等学校】	%	【高等学校】	%
①活用推進	20.0%	①活用推進	0.0%	①活用推進	16.7%
②効果的活用	11.4%	②効果的活用	14.3%	②効果的活用	11.9%
③データ利活用	0.0%	③データ利活用	0.0%	③データ利活用	0.0%
④情報活用能力	14.3%	④情報活用能力	0.0%	④情報活用能力	11.9%
⑤個別最適な学び	0.0%	⑤個別最適な学び	0.0%	⑤個別最適な学び	0.0%
⑥デジタル人材育成	14.3%	⑥デジタル人材育成	14.3%	⑥デジタル人材育成	14.3%
⑦機器・ネット環境等	40.0%	⑦機器・ネット環境等	57.1%	⑦機器・ネット環境等	42.9%
⑧ICT支援員との連携	0.0%	⑧ICT支援員との連携	0.0%	⑧ICT支援員との連携	0.0%
⑨その他	0.0%	⑨その他	14.3%	⑨その他	2.4%
【特別支援学校】	%	【特別支援学校】	%	【特別支援学校】	%
①活用推進	0.0%	①活用推進	20.0%	①活用推進	8.3%
②効果的活用	42.9%	②効果的活用	0.0%	②効果的活用	25.0%
③データ利活用	0.0%	③データ利活用	0.0%	③データ利活用	0.0%
④情報活用能力	0.0%	④情報活用能力	0.0%	④情報活用能力	0.0%
⑤個別最適な学び	0.0%	⑤個別最適な学び	0.0%	⑤個別最適な学び	0.0%
⑥デジタル人材育成	14.3%	⑥デジタル人材育成	20.0%	⑥デジタル人材育成	16.7%
⑦機器・ネット環境等	42.9%	⑦機器・ネット環境等	20.0%	⑦機器・ネット環境等	33.3%
⑧ICT支援員との連携	0.0%	⑧ICT支援員との連携	0.0%	⑧ICT支援員との連携	0.0%
⑨その他	0.0%	⑨その他	40.0%	⑨その他	16.7%

※学校主体では対応が難しい課題(灰色枠) ⇒ GIGAスクール構想第2期の着実な実施

(1) 「徳島県 ICT 活用モデル」に関する取組について

「S」段階の学校における課題より

情報収集月：12月

「S」段階の学校における課題分類の割合

ICTの活用推進（GIGAスクール構想や教育DXの理念・理論の共有、授業や校務のデジタル化・ICT活用・DX推進等）	12.5%
ICTの効果的活用（各教科等におけるICTの活用研究・校務でのICT活用による働き方改革等）	25%
データ利活用（教育データの収集・分析・利活用方法についての研究等）	6.3%
児童生徒の情報活用能力の育成（モラルも含む）	8.3%
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた研究・実践等	4.2%
デジタル人材の育成（教員のICTスキルアップ等）	20.8%
機器・ネットワーク環境（整備・要望等）	10.4%
ICT支援員との連携	12.5%

「ICTの活用推進」にも影響
⇒効果的でないから使わない

⇒ 「S」段階の学校では、「ICTの効果的活用」と「デジタル人材の育成」が課題となっている割合が高い。

① ICTの効果的活用について

⇒各教科等で育成すべき資質・能力の向上が見られるか？

⇒各校種の各教科等担当・研修担当指導主事等との連携

② デジタル人材の育成

⇒地域間や学校間、教員間等で生じている格差への手立て

⇒教員のICTスキルアップを図る必要性

(1) 「徳島県 ICT 活用モデル」に関する取組について

教育DX推進に係るFAQ

- ◎ 学校訪問(合計111校)・オンラインヒアリング(合計179校)により
情報・意見等の収集
- ◎ 実際にいただいた意見等に対する回答としてFAQを作成
- ◎ 推進チームで案を作成し、各校種部会に検討を依頼 ⇒ 承認
- ◎ **本日の推進本部会議にて御意見等をいただき、最終校正**
- ◎ 「令和6年度版」として発行 ⇒ 次年度の教育DX推進にも活用予定

別添【資料4】

【令和6年度版】教育DX推進(「徳島ICT活用モデル」の活用)に係るFAQ

① ICTの活用推進

1 Q:「徳島 ICT 活用モデル」の S 段階から A 段階へのステップアップのポイントは?

A:「管理職のリーダーシップ」「できることから どんどん進める」「みんなで取り組む(校内研修・ミニ研修・普段の会話 等で横展開)」がポイントです。教師、児童生徒が積極的に利用することで、「デジタルならではの効果的な使い方」のイメージが膨らむことが期待できます。

2 Q:タブレットは活用しているが、発表(伝える)だけで終わってしまい、友達の意見と比較したり考えを深めたりすることが少ない。

A:クラウドを活用すると、口頭での発表時間を短縮したり、発表と同時に児童生徒の意見や考えを可視化・共有したりすることが可能です。そうして捻出した時間で、比較・分類・整理する活動を中心に授業を展開したり、児童生徒同士が質問し合い、協議する活動を行ったりしている例もあります。

3 Q:研究授業や公開授業などで M 段階の授業を参観した経験が少なく、児童生徒主体の活動をイメージしづらい。

A:「[StuDX Style \(文科省\)](#)」や「[徳島 ICT 活用モデル](#)」、「[すだちくん 1 分 StuDX](#)」には、児童生徒主体の活動をイメージできるコンテンツや事例が掲載されています。参考にしてください。

4 Q:各学年・各学級によって、ICT の活用等に差異がある。

(2) 次年度の方向性等について

次年度の目標について

令和6年度の推進目標

「教育DXによる学び・指導の充実と深化」

・「徳島ICT活用モデル」のA段階以上の実施率100%

校種/12月	「S」段階	「A」以上の段階
全校種	5.5%	94.4%
小のみ	2.5%	97.5%
中のみ	8.8%	91.3%
高のみ	12.5%	87.5%
特のみ	0%	100%

令和6年度の全体重点目標

- ① 「徳島ICT活用モデル」を活かした効果的活用の実践
 - ・ ICT活用による「子ども主体の学び」の充実
 - ・ 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」について研究
- ② 教育DXによる新たな「学び」を創出
 - ・ 「子ども主体の学び」と「ICT」のベストマッチを検証
 - ・ 生成AI等を活用した授業を研究
- ③ 情報モラル・情報セキュリティ教育の充実
 - ・ デジタル技術の適正な利活用スキルと情報社会に参画する能力の育成

引き続き、
ボトムアップ
支援は必要

(2) 次年度の方向性等について

次年度の目標について

(1) 「徳島県ICT活用モデル」に関する取組について

「S」段階の学校における課題より

情報収集月：12月

「S」段階の学校における課題分類の割合

ICTの活用推進（GIGAスクール構想や教育DXの理念・理論の共有、授業や校務のデジタル化・ICT活用・DX推進等）	12.5%
ICTの効果的活用（各教科等におけるICTの活用研究・校務でのICT活用による働き方改革等）	25%
データ利活用（教育データの収集・分析・利活用方法についての研究等）	6.3%
児童生徒の情報活用能力の育成（モラルも含む）	8.3%
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた研究・実践等	4.2%
デジタル人材の育成（教員のICTスキルアップ等）	20.8%
機器・ネットワーク環境（整備・要望等）	10.4%
ICT支援員との連携	12.5%

「ICTの活用推進」にも影響
⇒効果的でないから使わない

⇒「S」段階の学校では、「ICTの効果的活用」と「デジタル人材の育成」が課題となっている割合が高い。

① ICTの効果的活用について

- ⇒各教科等で育成すべき資質・能力の向上が見られるか？
- ⇒各校種の各教科担当・研修担当指導主事等との連携

② デジタル人材の育成

- ⇒地域間や学校間、教員間で生じている格差への手立て
- ⇒教員のICTスキルアップを図る必要性

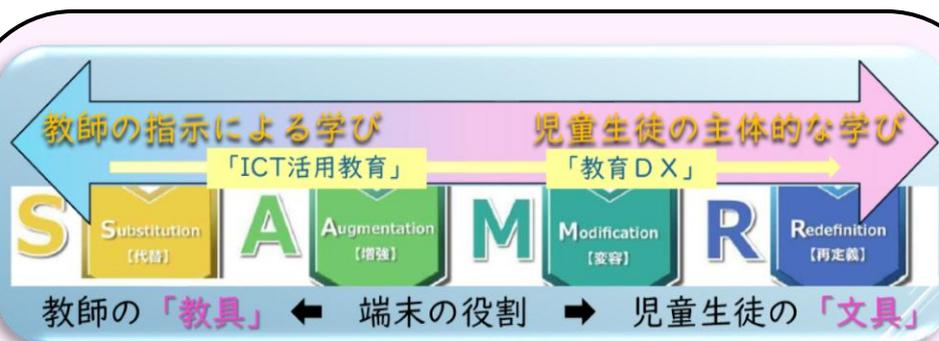
県域アカウントの普及・活用の支援

校種や市町村の別による影響が小さく、効果的な学習指導や業務効率化に係る好事例の普及だけでなく、児童生徒による自らの学習履歴や教育データの効果的活用にも有効

標準化と自由化

「将来を見据えた
県域アカウント活用の推進」

- ・県域アカウントと独自ツールの双方を活用した授業づくり
- ・校務や研修等における県域アカウントの活用支援



「徳島ICT活用モデル」S段階の学校への支援

+

「徳島ICT活用モデル」M段階の事例創出

※ M段階=DX本来の目的



+

「徳島教育大綱」及び
「徳島県教育振興計画」
における施策の方向性
も踏まえて

(2) 次年度の方向性等について

次年度の目標について

令和7年度の推進目標（案）

「学びを豊かにする教育DXの推進」

- ・各校における「徳島ICT活用モデル」のM段階の事例研究・創出

令和7年度の全体重点目標（案）

- ① GIGAスクール構想の更なる展開
「M」段階の事例創出 「S」段階の学校のボトムアップ
・「徳島ICT活用モデル」による学び・指導の変革とICTの活用推進
- ② ICTを活用した教育の推進
「県域アカウント」の普及
・県域アカウント（クラウドツール）利活用の研究・推進
・先端技術を活用した新たな教育の可能性を広げる教育の研究・推進
- ③ ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
・児童生徒の主体的な学びを支える情報活用能力（情報モラル、情報セキュリティ、プログラミング的思考に関する資質・能力を含む）の育成
・児童生徒の発達段階や学習段階、多様な学習ニーズに応じた教育活動の推進

(2) 次年度の方向性等について

推進本部及び各部会の構成について

徳島県GIGAスクール構想推進本部設置要綱（新旧対照表）

(新)	(旧)
<p>3（構成） 本部員 ◇関係団体 徳島県小学校長会会長、徳島県中学校長会会長、徳島県高等学校長協会会長、徳島県特別支援学校長会会長 <u>又は各校長会・校長協会が推薦する 会員</u></p>	<p>3（構成） 本部員 ◇関係団体 徳島県小学校長会会長、徳島県中学校長会会長、徳島県高等学校長協会会長、徳島県特別支援学校長会会長</p>
<p>4（部会） 推進本部は、必要に応じ、「徳島県GIGAスクール構想」の実現に必要な作業を行う部会を設置することができる。<u>部会の構成員は、教育委員会、県立学校、市町村立小中学校及び大学等の職員とする。</u> <u>①部会長は、本部長の指定する役職にある者とする。</u> <u>②部会員は、部会長の推薦する者とする。</u></p>	<p>4（部会） 推進本部は、必要に応じ、「徳島県GIGAスクール構想」の実現に必要な作業を行う部会を設置することができる。<u>部会の構成員は、教育委員会、県立学校、市町村立小中学校及び大学等の職員で本部長の指定する役職にある者とする。</u></p>

要綱の全文は
別添【資料5】

※ 構成枠の拡大
引き続き、各校長会・
校長協会の御助力をお
願いたします。

活動の更なる活性化を
図るため、部会の構成
についても各部会で検
討できるようにする。

令和6年度重点目標

自他の権利を尊重し、デジタル技術を適切に扱う責任の自覚を高める

課題

- ・情報化の進展に即した情報モラル・情報セキュリティ教育の推進（児童生徒・教職員・保護者等）
- ・先端技術の教育実践への適正な利活用とルールの更新

方策

- ・情報モラル・情報セキュリティ関係の情報収集・発信
- ・「生成AI」等の利活用に関する事例収集・研究と「FAQ」の更新
- ・各校種部会と連携して具体的な内容を協議・検討

令和6年度の成果と課題

<モラル>

- ・情報モラル教材の作成
- ・リーフレット配布による周知・啓発
- ・教職員研修の実施
- ・生成AIの利活用に関するFAQの更新

<セキュリティ>

- ・セキュリティポリシー関連様式を改正
- ・「教育データ利活用に係る留意事項（第2版）」に係る点検
- ・クラウドサービス利用について点検・見直し
- ・メッセージ表示によるセキュリティ意識の向上

情報活用能力の育成を図った

<課題>

- ・技術の進化や教育現場の課題への対応
- ・データの保護に対する意識の向上
- ・生成AIの適切な利活用

令和7年度重点目標

<重点目標> 情報セキュリティに関する理解を深め、先端技術を安全・適切に活用できる責任感を持った人財の育成

- <方策案>
- ・自他の人権を尊重する情報モラル教育の推進
 - ・情報を正しく安全に利活用できる情報活用能力の育成の推進
 - ・校務の様々な場面における、生成AIの適切な利活用の推進

令和6年度重点目標

主体的なICT活用による学びの深化 ～児童が自立的に学びを進める学習をめざして～

情報を正しく安全に利用できる能力の育成

課題

- ・教科等の特性を生かした効果的なICT活用の在り方の普及
- ・全ての教員がICTの実効性を実感できる 機会の充実
- ・学習のねらいを達成するツールとしての活用の推進

- ・情報のリスクに対応する力を育てる情報モラル教育の充実

方策

- ・徳島ICT活用モデルの周知と活用の促進
- ・管理職を軸とした研修・研究の充実
- ・主体的・協働的な学びにふさわしい活用事例の周知

- ・自分ごととして考え、話し合う情報モラル教育の実施
- ・保護者と連携強化し、SNS等にも配慮した教育の実施



学校における教育DXを推進する好事例

・教科の特性に応じた活用

例) 算数科: プログラミングを活用し、児童が試行錯誤を重ねながら論理的思考力を育成

外国語科: AIを活用した音読分析や対話の録音・文字化ツールを導入し、児童の自立的な学びを促進

総合的な学習の時間: SNSを活用し、児童が情報を整理・発信することで、課題解決力や表現力を向上

・情報活用能力の育成

例) 共同編集や他者参照を活用し、リアルタイムで意見を共有しながら、思考力や表現力等を高める

「学びの手引き」を活用し、児童が学習の過程を振り返り、自分に合った学び方を考える力を養う

低学年からタイピングの基礎を育み、端末を円滑に活用できる学習環境を計画的に整備

・校務での活用

例) 授業録画やホワイトボードツールを活用した校内研修を実施し、教員の授業力向上を支援

クラウドを活用し、議事録の共同編集、分掌のタスク管理、保護者との情報共有等を効率化し、負担を軽減

生成AIを活用し、学習支援資料の作成等を行う中で、教員や児童のAIリテラシーの向上を図る

令和6年度成果と課題

<成果>

- ・ICTの活用により学習効果が増強する授業実践の定着
- ・教師がクラウド活用の利便性を実感し、その知見を授業や子供に還元する実践の広まり
- ・先進的事例の収集と周知(空間を越えた児童の学びや生成AI活用等、新たな学びの機会)
- ・「GIGAワークブックとくしま」を活用し、児童がデジタル社会に関する知識を学ぶ機会が拡充

<課題>

- ・教科等の特性を踏まえたICTの活用方法を整理し、現場での活用促進に向けた周知
- ・教員や児童のICTスキルの個人差を解消するための全体的な底上げの推進
- ・児童が主体的にICTを活用できる環境の整備(タイピング練習のウェブシステム等)
- ・生成AIやSNSの新たなリスクに対応し、保護者と連携した情報モラル教育の充実

令和7年度重点目標

<重点目標>

主体的なICT活用による学びの深化 ～一人一人が学びを深める学習をめざして～

<方策案>

- ・徳島県ICT活用モデルM段階の事例創出と普及
- ・県域アカウントを活用したクラウドツールの研究・推進
- ・教科等の特性を踏まえたICT活用方法の好事例の共有・発信
- ・情報モラル・セキュリティ教育の体系的な推進

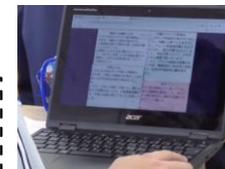
今後めざすICT活用の姿

児童が自ら学び方を選択し、ICTを適切に活用しながら、主体的に学習に取り組む姿

令和6年度重点目標

「全教職員で取り組む1人1台端末の活用」

～「徳島ICT活用モデル」から指導・学びの変革を目指して～



課題

- 全ての教職員におけるICTスキルの格差
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた好事例の発信



方策

- 個人内で立てる明確な目標
- リーフレットに掲載されている実践の積極的活用（「徳島ICT活用モデル」の実践）
- 学校訪問で好事例を発信

好事例

- 学校独自のICT活用モデルの作成
（全教職員の授業実践を持ち寄り、一冊にまとめる）
- ファシリテーションと教育DX
（教科を越えて話を聞く、伝える際、端末を利用）
- 各教科で、生徒が主体的に取り組む単元目標を設定し、研究授業を実施
- 職員朝会の資料をタブレット上でやりとり
（アンケートをクラウド上で実施。スムーズな進行）
- 授業研究におけるタブレットの活用
（授業の感想や授業の動画を共有）

令和6年度の成果と課題

【成果】

- ・ 教員も生徒も普段使いができています
- ・ 外部からの講師を招いての研修を行い、職員間で便利さの共有をはかることができた
- ・ 生徒も研修を受けたので、色々な制作にICTを使う場面が増えている
- ・ メンター研修を行い、ICTを活用できる教員が増えた

【課題】

- ・ SAMRモデルのM段階へ向けての手立てがわからない
- ・ SAMRモデルを理解するのが難しい、段階がグラデーション
- ・ 進んでいるICTの使い方の情報をどのように共有していくか

令和7年度重点目標

「生徒の主体的な学びを目指して1人1台端末の活用」

～「徳島ICT活用モデル」から指導・学びの変革を目指して～

方策

具体的な実践例などの情報やデータの共有、研修の機会を増やし、県全体で次の段階を目指す

令和6年度重点目標

これまでの実践を踏まえた、ICTの日常的な活用による「生徒主体の学び」と「ICT」との最適な組み合わせを実現

自他の権利を尊重し、デジタル技術を適切に扱う責任を生徒が自覚できるよう指導を充実

課題

- ・1人1台端末の日常的・効果的な活用
- ・ICTの活用を推進する校内体制の充実
- ・DXによる学び・指導の変革

・情報活用能力（情報モラルを含む）の育成と先端技術の教育実践への適切な利活用

方策

- ・ICTや先端技術を効果的に活用しながら協働的な学びを実施
- ・学校訪問等における研究授業の充実
- ・校務におけるICT活用も含めた活用事例を収集し部会通信等で発信

・「生成AI」等の利活用に関する事例収集・発信

学校における教育DXを推進する好事例

- ・オンライン学習サービスを活用した学力向上と学習意欲の向上のための個別最適な学習
- ・教育クラウドサービスなどを活用し、生徒同士が協力して課題に取り組む協働学習
例) 共同編集機能を活用した資料作成、TeamsやForms等を用いた協働作業
- ・生徒自身が課題を設定し、情報を収集・分析するICTを活用した探究学習
例) フィールドワークで得た情報を整理・分析し、地域の魅力について考えをまとめて発信
- ・教師のICTスキル向上に向けた研究授業や研修会
例) ChatGPTの研修、各アプリの効果的な活用方法に関する研修、グループや有志での研修
- ・校内会議や授業資料のデジタル化とクラウド共有による、ペーパーレスな会議・授業運営
例) MetaMoJi Classroom等を活用した授業研究会、SHR連絡を全校生徒に配信、ポートフォリオ等をデジタル化

令和6年度の成果と課題

<成果>

- ・ICTを活用したグループ活動や教育クラウドサービスによる生徒間の意見交換が活発化、協働的な学び展開する事例の創出
- ・授業におけるICT活用の頻度は増加傾向、特に調べ学習やプレゼンテーション等における活用の進展
- ・研究授業や研修会等を通じた教員間でのICT活用に関する情報共有や意見交換が活発化
- ・部会通信やウェブサイト等を通じた事例発信による、各学校における先進的なICT活用の取組の可視化、自校の取組改善の動き

<課題>

- ・学校間や教員間等でICT活用の進捗に差があり、全体として活用の幅を広げる必要性
- ・ICTの効果的な活用による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ・多様な場面でICTを活用した校務支援や授業実践等の好事例の共有・発信の継続的な必要性
- ・生成AI等の先端技術について、教育現場での活用法と安全性を考慮した適正利用

令和7年度重点目標

<重点目標>

ICT活用による生徒の主体的な学びを推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

<方策案>

- ・Google Workspace を活用した校務支援や授業を実施
- ・M段階の実践事例を収集し部会通信等で発信
- ・生成AI等の先端技術について、活用法や安全性を考慮した適正利用を部会通信等で発信

今後めざすICT活用の姿

主体的にICTを活用して他者と協働して考察や発信ができる姿

徳島ICT活用モデルについて

事例

オンラインを活用し、協働的な体験活動を創出

自宅に居ながら、
体験活動を共有



オンラインを活用し、時間や場所
などの制約なく、学校で学ぶ児童と
自宅で学ぶ児童がつながる「協働的
な体験活動」を創出。



今後目指すICT活用の姿

主体的にICTを活用し、新たな学びや
体験に挑戦する子ども

今後、どんな事例があれば良いか

ICTを活用し、これまで接点のなかった
地域や事業所等をつなぎ、特別な支援を
必要とする子どもたちの新たな「学びの
場」や「活躍の場」のさらなる充実

令和6年度重点目標

ICTをフル活用した新たな「学び」や「体験」の創出
～シームレスにつながり、みんなの学びへ～

発達段階や障がい種別に応じた「情報モラル・セキュリティ教育」の充実

課題

- ・オンラインによる学校間交流の充実
- ・ICTを活用した新たな学びや体験の創出
- ・実態に即した「情報モラル・セキュリティ教育」の充実

方策

- ・好事例を周知し、活用方法を共有
- ・専門家と連携し、新たな学びや体験に係る研究を推進
- ・「情報モラル・ターゲット表」の活用による学習の拡充

令和6年度の成果と課題

①情報モラル研究会

各校でテーマを設定し、学習成果をTeamsで共有

今年度の私たちのテーマは

- ・SNSでの発信の際の注意点
- ・スマホやPC、タブレットの使いすぎ



Teamsを活用し、
他校と学びを共有

【成果】

- ・県内特別支援学校がオンラインでつながり、各校における「学びを共有課題」

【課題】

- ・継続した指導になるような工夫及び家庭等との連携

②新たな学びや体験の創出

ICTをフル活用した新たな学びや体験の創



ロボット
プログラミング
選手権に出場



AIを活用した
支援ツールの体験

【成果】

- ・各校において、ICTの活用による特色ある学びや体験を創出

【課題】

- ・リソース等を学校間や教員間で積極的に共有

③専門家との連携

専門家等との連携による
デジタル技術を活用した学び



Canvaを使った
AIの活用



eスポーツによる
交流活動

【成果】

- ・専門家等との協働により、ICTの強みを最大限に発揮

【課題】

- ・好事例を共有することにより、他校における活用の横展開を促進

<児童生徒の変容>

- ・他校生との学びの中で新たな発見をし、高い目標を持つことができるなど、モチベーションを高めることができた。
- ・気軽に交流ができ、他校の進路や学校について知ることで、進路選択の助けになるなど、自己理解を深めることができた。

令和7年度重点目標

<重点目標>

ICTをフル活用した新たな「学び」や「体験」の充実
～シームレスにつながり、みんなの学びへ～

<方策案>

- ・ICTを活用した様々な発達段階の児童生徒が取り組む体験型学習の充実
- ・児童生徒主体の「情報モラル研究会」における情報モラル・セキュリティに係る学びの共有

令和6年度GIGAスクール構想推進本部 【 学びの保障 】部会

令和6年度重点目標

- ・「中くらの器」としての『教育支援センター』及び『校内教育支援センター』との連携強化、周知
- ・「学校外の学びの場」における、効果的なICT活用・連携について事例収集、周知



課題

- ・「早期発見」「早期支援」
 - ・学校外の学び場との繋がり
 - ・遠隔教育の指導内容や方法
- ICTの効果的な活用

方策

- ・アンケート調査による情報収集、ICT活用の効果的な実践研究
- ・教育支援センター、保健室等において取り組んでいる支援の好事例収集
- ・最先端技術の活用について、実践している好事例収集及び研究

令和6年度の成果と課題

<成果>

- ・多様な学びの場と学校・家庭を繋ぐICTの取組状況の収集、発信や教育支援センター等の訪問における連携強化
- ・不登校児童生徒等への支援の取組状況調査において、ICTを活用した支援の事例を収集、発信
- ・高等学校等の病気療養中の生徒に対する遠隔教育の情報収集、発信

<課題>

- ・多様な学びの場と学校・家庭を繋ぐICT活用の実践事例を踏まえた研究、周知
- ・学校や関係機関との更なる連携や情報共有
- ・文部科学省「高等学校等における多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現について(通知)」を踏まえ、遠隔教育の具体的な指導内容や方法等、運用面についての情報収集

令和7年度重点目標

<重点目標>

不登校及び病気療養の児童生徒全ての学びの場を確保し、ICTの効果的な活用を研究

<方策案>

- ・不登校児童生徒等への支援の取組状況調査の実施
- ・学校計画訪問や教育支援センター等の訪問による事例収集、発信

令和6年度重点目標

義務教育段階におけるGIGA第2期の端末更新及び学校業務支援システムの更改

課題

- ・GIGAスクール構想推進に向けた、端末機器等の具体的な調達方針の検討
- ・「学校業務支援システム」の更新に向けた、次世代校務支援システムの導入の検討

方策

- ・端末調達に係る市町村の事務負担の軽減や、スケールメリットによる端末等の共同調達を通じた端末利活用等に係るノウハウを共有することで業務改善を図る。
- ・引き続き、他都道府県等への独自調査等を実施し全国状況の把握を行う。

取組の進捗状況

- 学習者用コンピュータの共同調達の仕様等について情報収集・情報共有・検討を行う。
 - ・各市町村に向けて、3OS (WindowsOS・ChromeOS・IpadOS)の各ベンダーによる説明会を実施。
 - ・各OS採用している市町村教育委員会及び教職員から、報告及び意見交換会を実施。
- 共同調達予定の端末について、各OS毎に令和7年度調達予定の市町村と仕様書等の検討を行う。
 - ・共同調達のスケジュールを確認
 - ・学習者用端末の基本仕様について検討。
 - ・キーボード、タッチペン、MDM等について検討。
- 令和6年度の共同調達を実施

令和6年度GIGAスクール構想推進本部【教育DXタスクフォース】部会

令和6年度重点目標

徳島県における教育のDXを加速化し、教育に必要な環境を実現する協議及び調整を行う

課題

- ・県立学校におけるタブレット端末の再整備の実現及び、次期端末への更新等に関すること。
- ・ネットワーク環境の改善に向け、ネットワークの遅延等の改善に関すること。

方策

- ・他都道府県等への独自調査等を実施し全国状況の把握を行う。
- ・対象校の論理構成図や物理構成図及び現地調査を実施することで問題点を抽出し改善を行う。

令和6年度の成果と課題

<成果>

- 徳島県学校教育情報化推進計画について概要や課題、今後のスケジュールについて説明し、成果指標の修正について検討。
- 県域の統一アカウントについての検討し、順次配布を進めていくことを確認。
- 県立学校生徒用タブレットのOSについて、Chromebook実証校へアンケートを実施し、時期タブレット端末として、Chromebookの導入を進めていく方針を確認。

- 県立学校のネットワークアセスメントについて、各県立学校・中等教育学校の論理構成図及び現地調査を実施し、実施後、ボトルネックになっている箇所を洗い出し、改善していく。

<課題>

- 県域の統一アカウントの配布を進めていく際の、統一アカウントの命名規則についてを検討する必要がある。

令和6年度重点目標

- ・CBTの効果的なデータ利活用及びMEXCBT運用についての調査・研究

課題

- ・MEXCBTで取得可能なデータの活用方法について
- ・県学調をMEXCBTに登録する際の課題の洗い出し

方策

- ・MEXCBTを部会員で試験使用する。
- ・他県のMEXCBT運用状況等について調査する。

令和6年度の成果と課題

〈成果〉

- ・他県のMEXCBT運用状況等の把握（一部、独自CBTシステムの運用状況も把握）
- ・MEXCBTの研究及びその利用方法等についての紹介 ※部会通信の作成・発行
- ・相関係数を用いたデータ分析についての研究及びその活用方法についての紹介 ※部会通信の作成・発行

〈課題〉

- ・MEXCBTによる県学調実施上の諸課題 ⇒ 引き続き、調査と研究が必要
- ・各校や各自治体等に点在する児童生徒の多種多様な教育データの収集（テストやAIドリルの成績、質問調査やアンケートの回答、ICT利用ログ、学びの記録等） ⇒ データを一箇所に蓄積することが必要

令和7年度の重点目標と方策（案）

〈重点目標案〉

県域アカウント及びMEXCBT (CBT) を用いた効果的なデータ利活用の研究

〈方策案〉

- ・県域アカウント（グーグルアカウント）を用いた教育データ利活用等の事例を調査する。
- ・MEXCBT (CBT) の現状や展望、データ利活用状況等について調査を継続する。